専門試験

養護教諭

（７０分）

【注意事項】

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　この問題冊子は、30ページあります。

3　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

4　監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に、以下の内容を記入しなさい。正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。

（1）選考区分欄に、一般選考志望者は１、特別選考（Ⅰ）（障がい者特別選考）志望者は２と記入しなさい。

（2）受験番号欄に、受験番号を記入しなさい。

5　解答用紙の※印の欄及び余白には、何も記入してはいけません。

6　解答は、解答用紙の解答欄に丁寧に記入しなさい。解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから記入しなさい。数字が読み取れない場合は、採点できません。

7　試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

【1】学校保健に関する法規について、次の（1）～（4）の問いに答えよ。

（1）学校保健安全法第七条について、（　　）に入る最も適切なものを、下の１～５のうちから一つ選べ。

第七条　学校には、（　　）、健康相談、保健指導、救急処置その他の保健に関する措置を行うため、保健室を設けるものとする。

1　保健調査
2　健康観察
3　健康診断
4　環境衛生検査
5　保健教育

（2）学校保健安全法第十三条、第十四条について、（　①　）～（　⑤　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

第十三条　学校においては、毎学年定期に、児童生徒等（（　①　）を受ける学生を除く。）の健康診断を行わなければならない。

2　学校においては、（　②　）があるときは、臨時に、児童生徒等の健康診断を行うものとする。

第十四条　学校においては、前条の健康診断の結果に基づき、疾病の予防処置を行い、又は（　③　）を指示し、並びに（　④　）及び（　⑤　）を軽減する等適切な措置をとらなければならない。

1	①　通級による指導	②　同意	③　治療	④　活動	⑤　作業
2	①　通信による教育	②　必要	③　受診	④　活動	⑤　学習
3	①　通信による教育	②　同意	③　受診	④　活動	⑤　学習
4	①　通級による指導	②　同意	③　受診	④　運動	⑤　作業
5	①　通級による指導	②　必要	③　治療	④　運動	⑤　学習
6	①　通信による教育	②　必要	③　治療	④　運動	⑤　作業

（3）学校保健安全法施行令第八条について、下線部①～⑤の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

第八条　法第二十四条の政令で定める疾病は、次に掲げるものとする。

一　トラコーマ及び①角膜炎

二　白癬、疥癬及び②膿痂疹

三　③中耳炎

四　④急性副鼻腔炎及びアデノイド

五　齲歯

六　寄生虫病（虫卵保有を⑤含まない。）

1　①　誤　②　誤　③　誤　④　正　⑤　誤
2　①　誤　②　正　③　正　④　誤　⑤　誤
3　①　正　②　正　③　誤　④　正　⑤　誤
4　①　正　②　正　③　誤　④　誤　⑤　正
5　①　誤　②　誤　③　正　④　誤　⑤　正
6　①　正　②　誤　③　正　④　正　⑤　正

（4）学校保健安全法施行規則第八条第４項、及び第二十一条のうち、下線部①～⑤の記述について、正しいものの組合せとして最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

第八条

４　児童生徒等の健康診断票は、①五年間保存しなければならない。ただし、第二項の規定により送付を受けた児童又は生徒の健康診断票は、当該健康診断票に係る児童又は生徒が進学前の学校を卒業した日から①五年間とする。

第二十一条　②養護教諭は、学校内において、感染症にかかつており、又はかかつている疑いがある児童生徒等を発見した場合において、必要と認めるときは、③学校医に診断させ、法第十九条の規定による④出席停止の指示をするほか、消毒その他適当な処置をするものとする。

２　②養護教諭は、学校内に、感染症の病毒に汚染し、又は汚染した疑いがある物件があるときは、消毒その他適当な処置をするものとする。

３　学校においては、その附近において、第一種又は第二種の感染症が発生したときは、その状況により適当な⑤消毒方法を行うものとする。

1　①、②、③
2　①、③、④
3　①、④、⑤
4　②、③、⑤
5　②、④、⑤
6　③、④、⑤

【2】救急処置、危機管理について、次の（1）～（3）の問いに答えよ。

（1）「救急蘇生法の指針2020（市民用）」（厚生労働省）の「Ⅵ　ファーストエイド」に示されている捻挫、打ち身（打撲）、骨折、やけど、歯の損傷に関する記述①～⑥について、正しいものの組合せとして最も適切なものを、下の1～6のうちから一つ選べ。

① 捻挫や打ち身（打撲）は、冷却パックを皮膚に直接当て、冷やす。
② けがで手足が変形している場合、変形した状態をできるだけ元に戻してから、添え木や三角巾などで固定する。
③ やけどをすぐに氷や氷水で冷却すると、やけどが悪化するのを防ぎ、治りを早めることができる。
④ やけどをした部位に水疱（水ぶくれ）ができている場合は、つぶれないようにそっと冷却し、触らないように保護する。
⑤ 歯が抜けた場合、抜けた歯を「歯の保存液」もしくは冷えた牛乳にひたすか、それらがなければ、乾燥させないようにラップフィルムに包んで、すみやかに歯科医師の診察を受ける。
⑥ 抜けた歯を持つときには付け根の部分に触れないようにする。

1　①、②、④
2　①、③、⑤
3　②、③、⑤
4　②、④、⑥
5　③、⑤、⑥
6　①、⑤、⑥

（2）「学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－　－令和2年度改訂－」（日本学校保健会）の「第2章　調査結果から見た学校保健の課題とその対応　Ⅱ　保健管理　1　救急処置　（5）救急体制の確立」に示されている保護者への連絡の留意点に関する記述①～⑤について、誤っているものはいくつあるか。下の1～5のうちから一つ選べ。

① 保護者に対し、事故等の発生（第1報）は可能な限り早く連絡する。その際、事故等の概況、けがの程度など最低限必要とする情報を整理できてなくても構わない。
② 被害等の詳細や搬送先の医療機関等、ある程度の情報が整理できた段階で、第2報を行う。
③ 第2報以後、正確かつ迅速な連絡に努める。
④ 緊急の際の連絡方法を複数確保しておく。
⑤ 搬送者や搬送先を記録しておく。

1　なし
2　1つ
3　2つ
4　3つ
5　4つ

（3）「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン　令和元年度改訂」（日本学校保健会）の「第２章　疾患各論　１．食物アレルギー・アナフィラキシー」に示されている緊急時に備えた処方薬に関する説明のうち、下線部①～⑤の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

内服薬としては、多くの場合、抗ヒスタミン薬や①ステロイド薬が処方されています。しかし、これらの薬は、内服してから効果が現れるまでに②30分以上かかるため、アナフィラキシーなどの緊急を要する重篤な症状に対して効果を期待することはできません。誤食時に備えて処方されることが多い医薬品ですが、③呼吸症状などに対して使用するものと考えてください。

アナフィラキシー症状は時に２相性反応（一度おさまった症状が④数分後に再び出現する）を示します。ステロイド薬は急性期の症状を抑える効果はなく、⑤１相目の反応を抑える効果が期待されています。

1	①	正	②	正	③	誤	④	誤	⑤ 誤
2	①	正	②	正	③	誤	④	正	⑤ 正
3	①	正	②	誤	③	正	④	誤	⑤ 誤
4	①	誤	②	誤	③	誤	④	正	⑤ 正
5	①	誤	②	誤	③	正	④	誤	⑤ 正
6	①	誤	②	正	③	正	④	正	⑤ 誤

【3】児童生徒の健康診断について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1）「児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年度改訂」（日本学校保健会）の「第１章　５　方法及び技術的基準　4　脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態」に示されている留意事項に関する記述について、（　①　）～（　⑤　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

・　背骨が曲がっている。

　肩の高さ・肩甲骨の高さや後方への出っ張り・ウェストラインの左右差の有無を確認する。また（　①　）テストを実施する。

・　腰を曲げたり、反らしたりすると痛みがある。

　かがんだり（屈曲）、反らしたり（伸展）したときに、腰に痛みが出るか否かをたずね、後ろに反らせることにより（　②　）が誘発されるかどうか確認する。

・　肩関節に痛みや動きの悪いところがある。

　肩関節の可動性は（　③　）より観察して、児童生徒等の両肘関節を伸展させた状態で上肢を（　④　）挙上させて異常の有無を検査する。上腕が耳につくか否かに注意する。

・　片脚立ちが（　⑤　）秒以上できない。しゃがみこみができない。

　立つ、歩行、しゃがむなどの動作がぎこちないか、また左右それぞれに片脚立ちするとふらつかないか、骨盤が傾いたり、背骨が曲がったりしないかを観察する。

1	①	後屈	②	先天性股関節脱臼	③	側面	④	前方	⑤ 10
2	①	前屈	②	先天性股関節脱臼	③	正面	④	後方	⑤ 10
3	①	前屈	②	腰痛	③	側面	④	前方	⑤ 5
4	①	後屈	②	腰痛	③	側面	④	後方	⑤ 10
5	①	後屈	②	腰痛	③	正面	④	後方	⑤ 5
6	①	前屈	②	先天性股関節脱臼	③	正面	④	前方	⑤ 5

（2）「学校保健安全法施行規則の一部改正等について（通知）」（平成26年４月30日　文部科学省）に示されている改正に係る留意事項及びその他健康診断の実施に係る留意事項に関する記述のうち、下線部①～⑤の記述について、誤っているものの組合せを、下の１～５のうちから一つ選べ。

・　①座高の検査を必須項目から削除したことに伴い、児童生徒等の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用することが重要となること。
・　②寄生虫卵検査の検出率には地域性があり、一定数の陽性者が存在する地域もあるため、それらの地域においては、今後も検査の実施や衛生教育の徹底などを通して、引き続き寄生虫への対応に取り組む必要があること。
・　児童生徒等の健康診断には、家庭における健康観察を踏まえ、学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて、疾病をスクリーニングし、児童生徒等の健康状態を把握するという役割と、学校における健康課題を明らかにすることで、③学校保健委員会の充実に役立てるという役割があることに留意すること。
・　教職員が、④色覚異常に関する正確な知識を持ち、学習指導、生徒指導、進路指導等において、④色覚異常について配慮を行うとともに、適切な指導を行うよう取り計らうこと等を推進すること。
・　健康診断の結果、心身に疾病又は異常が認められず、健康と認められる児童生徒等についても、事後措置として健康診断の結果を⑤通知する必要がないこと。

1　①、②
2　①、③
3　②、④
4　③、⑤
5　④、⑤

【4】健康観察について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1）「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」（平成21年　文部科学省）の「第５章　事例から見る子どものメンタルヘルスの理解と対応」に示されている健康観察のポイントについて、誤っているものを、次の１～５のうちから一つ選べ。

1　児童・思春期の双極性障害は大人と違い、躁やうつなどの症状が分かりにくく周囲を驚かすような行動をきっかけとして、発症に気付かれる場合が多い。
2　体重減少の原因の一つとして拒食症（神経性無食欲症）があることを念頭に置く。
3　自傷行為の背景の一つとして境界性パーソナリティ障害がある。
4　てんかん発作では、一見、発作には見えないようなタイプの多彩な症状はみられない。
5　不登校の原因の一つとして生活態度の問題とは無関係に生じる睡眠障害がある。

（2）「学校における子供の心のケアーサインを見逃さないために－」（平成26年３月　文部科学省）の「第１章　健康観察の進め方　２　危機発生時の健康観察」に示されている内容①～⑤について、誤っているものはいくつあるか。下の１～５のうちから一つ選べ。

① 災害や事件・事故発生時における子供のストレス症状の特徴を踏まえた上で、健康観察を行い、子供が示す心身のサインを見過ごさないようにすることが大切です。

② 危機発生時の子供の心身の健康問題を把握するための方法としては、子供の様子の直接的な観察、保護者との話合いによる間接的観察及び質問紙を使った調査等の方法がありますが、いずれも記録に残すことが大切です。

③ 子供は、自分の気持ちを自覚していないことや、言葉でうまく表現できないことが多く、心の問題が行動や態度の変化、頭痛・腹痛などの身体症状となって現れることは少ないです。

④ 危機発生時にもすぐに健康観察ができるように、日頃から危機発生時に行う健康観察の項目を考え、記録用紙を用意するなどの準備をしておくとよいでしょう。

⑤ 子供の心身の健康状態の観察においては、危機発生時に子供に現れやすい心身の反応について、校内研修会等により周知しておく必要があります。

1　1つ
2　2つ
3　3つ
4　4つ
5　5つ

【5】疾病、感染症の管理と予防について、次の（1）～（3）の問いに答えよ。

（1）「学校心臓検診の実際－スクリーニングから管理まで－」（令和２年度改訂　日本学校保健会）の「Ⅴ　児童生徒の心臓病　C　学童期によくみられる心臓病」に示されている内容①～⑤について、正誤の組合せとして最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

① 心房中隔欠損（ASD）
　症状が少ないことや心雑音が聴取されづらいことがあり診断が困難な場合があるため、心電図検査を行う学校心臓検診で初めて診断される場合がある。

② 心室中隔欠損（VSD）
　治療前の心室中隔欠損は、軽いものは、心雑音があっても症状がなければ運動制限を行う必要はない。

③ 動脈管開存（PDA）
　症状は、動脈管のサイズに左右される。その程度により左心房・左心室の拡大が生じる。軽いもの（動脈管のサイズが小さい）は、心雑音があるのみで、左心房・左心室の拡大も目立たないが、運動制限は必要である。

④ 洞性不整脈
　健康な小児にはしばしば見られものである。成人より小児ではっきり認める傾向がある。呼吸性不整脈は息を吸うとき（吸気）に脈が速くなり、息をはくとき（呼気）に脈が遅くなるものであり、治療、経過観察は必要ない。

⑤ ＱＴ延長症候群
　心電図上ＱＴ時間や補正ＱＴ時間（ＱＴｃ）が長く、かつ、突然、特有の心室頻拍や心室細動が出現し、失神したり、突然死したりする可能性のある疾患である。運動や水泳が心室頻拍の誘因となるタイプが多い。

1　① 正　② 正　③ 誤　④ 正　⑤ 正
2　① 正　② 誤　③ 誤　④ 誤　⑤ 誤
3　① 正　② 誤　③ 正　④ 誤　⑤ 正
4　① 誤　② 誤　③ 正　④ 正　⑤ 正
5　① 誤　② 正　③ 正　④ 誤　⑤ 誤
6　① 誤　② 正　③ 誤　④ 正　⑤ 誤

（2）「学校検尿のすべて」（令和２年度改訂　日本学校保健会）の「第５章　腎臓病の分類とそれぞれの病気　５　２次性糸球体腎炎」に示されている内容に関する記述について、文中の（　①　）～（　⑤　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

・　慢性糸球体腎炎と同じように蛋白尿や血尿、またはその両方が持続し、高血圧や腎機能の低下が（　①　）進行する可能性のある病態です。
・　小児で多くみられる２次性糸球体腎炎には紫斑病性腎炎や（　②　）などがあります。紫斑病性腎炎は、IgA血管炎という病気の一部として糸球体腎炎がおこり、（　③　）を中心とする紫斑をともないます。（　②　）は、（　④　）というリウマチ性疾患の一症状として発症する腎炎で、思春期の（　⑤　）に多くみられます。

1　①　急速に　②　アルポート症候群　③　四肢
　④　シューグレン症候群　⑤　女児
2　①　急速に　②　ループス腎炎　③　体幹
　④　シューグレン症候群　⑤　男児
3　①　ゆるやかに　②　アルポート症候群　③　四肢
　④　シューグレン症候群　⑤　男児
4　①　急速に　②　アルポート症候群　③　体幹
　④　全身性エリテマトーデス　⑤　女児
5　①　ゆるやかに　②　ループス腎炎　③　四肢
　④　全身性エリテマトーデス　⑤　女児
6　①　ゆるやかに　②　ループス腎炎　③　体幹
　④　全身性エリテマトーデス　⑤　男児

（3）「学校において予防すべき感染症の解説」（平成30年３月発行、日本学校保健会）の「Ⅲ　感染症各論」に示されている感染症に関する記述のうち、下線部①～⑤の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

・　麻しんの典型例では、臨床的に、カタル期、発しん期、回復期に分けられる。カタル期には眼が充血し、涙やめやにが多くなる、咳、鼻水などの症状と発熱がみられ、口内の頬粘膜に①コプリック斑という特徴的な白い斑点（粘膜疹）が見られるのが診断のポイントである。
・　咽頭結膜熱の病原体は、②エンテロウイルスである。高熱（39～40℃）、咽頭痛、頭痛、食欲不振を訴え、これらの症状が３～７日間続く。
・　流行性耳下腺炎は、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後③３日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席停止とする。
・　結核の感染経路は、主として感染性の患者からの空気感染（飛沫核感染）。④喀痰の塗抹検査で陽性の間は感染力が強い。
・　⑤RSウイルス感染症は、咳を主症状とし、学童期以降の細菌性肺炎としては最も多い。夏から秋にかけて多く、家族内感染や再感染も多くみられる。

1　①　正　②　誤　③　正　④　正　⑤　正
2　①　誤　②　誤　③　誤　④　誤　⑤　誤
3　①　正　②　正　③　正　④　誤　⑤　正
4　①　正　②　誤　③　誤　④　正　⑤　誤
5　①　誤　②　正　③　正　④　正　⑤　誤
6　①　誤　②　正　③　誤　④　誤　⑤　正

【6】「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践［平成30年度改訂版］」（平成30年８月　日本学校保健会）の「第Ⅱ章　学校環境衛生基準　第１　教室等の環境に係る学校環境衛生基準」に関する記述について、誤っているものを、次の１～５のうちから一つ選べ。

１　相対湿度は30%以上、80%以下であることが望ましい。
２　浮遊粉じんは0.50mg/m^{3}以下であること。
３　気流は0.5m/秒以下であることが望ましい。
４　二酸化窒素は0.06ppm以下であることが望ましい。
５　ホルムアルデヒドは100μg/m^{3}以下であること。

【7】保健教育について、次の（１）～（７）の問いに答えよ。

（１）改訂「『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」（令和２年３月　文部科学省）の「第１章　第２節　１　中学生における心身の発育・発達等の特性を踏まえる」に示されている記述のうち、下線部①～⑤の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

中学生期には、多くの生徒が発育急進期を迎え、身体が劇的に変化するが、その開始期や発育量には大きな①性差が認められる。また、様々な身体機能が著しく発達する。心の面では、小児から大人への変化の時期であり、小学生期に比較すると心理的にも②不安定な時期に当たる。中学生の行動変容は、小学生と比較すると、成人に対するような科学的あるいは③心理的な背景を必要とすることが多く、規則などでの管理的側面や一方的な知識の導入だけでは効果が少ないと一般的に言われている。また、身体的にも抵抗力が向上してくることから健康を意識する場面が④多く、健康行動よりも、単に外面的な美しさを求めるような行動様式を取ることもある。

生活面においても、生活範囲の拡大や課外活動等への参加に伴う生活時間の変化や⑤朝型の生活になりがちになるなど生活習慣に大きな変化が見られる。

１　①　正　②　正　③　誤　④　正　⑤　誤
２　①　正　②　誤　③　正　④　正　⑤　正
３　①　正　②　誤　③　正　④　誤　⑤　正
４　①　誤　②　正　③　誤　④　誤　⑤　誤
５　①　誤　②　誤　③　誤　④　正　⑤　誤
６　①　誤　②　正　③　正　④　誤　⑤　正

（2）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編」（平成29年７月　文部科学省）の「第２章　第２節　各学年の目標及び内容〔第５学年及び第６学年〕　２内容　G　保健（3）病気の予防　ア　知識」に関する記述について、文中の（　①　）～（　⑤　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

・　喫煙については、（　①　）が出たり（　②　）が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、（　③　）により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

飲酒については、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることを理解できるようにする。なお、飲酒を長い間続けると（　④　）などの病気の原因になるなどの影響があることについても触れるようにする。

・　薬物乱用については、（　⑤　）などの有機溶剤を取り上げ、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを理解できるようにする。

1　①　せき　②　一酸化炭素濃度　③　能動喫煙　④　脳　⑤　シンナー
2　①　唾液　②　心拍数　③　能動喫煙　④　脳　⑤　コカイン
3　①　せき　②　心拍数　③　受動喫煙　④　肝臓　⑤　シンナー
4　①　唾液　②　一酸化炭素濃度　③　能動喫煙　④　肝臓　⑤　コカイン
5　①　せき　②　心拍数　③　受動喫煙　④　脳　⑤　コカイン
6　①　唾液　②　一酸化炭素濃度　③　受動喫煙　④　肝臓　⑤　シンナー

（3）「『生きる力』を育む学校での歯・口の健康づくり　令和元年度改訂」（日本学校保健会）の「第２章　歯・口の健康づくりの理論と基礎知識　第３節　むし歯の原因とその予防　１　むし歯という病気」に関する内容ア～オのうち、下線部①～⑤の記述について、**誤っているもの**の組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

○むし歯にかかりやすい歯と部位

ア　歯の種類や歯面によってむし歯のかかりやすさに差がある。これは、歯の①数あるいは口のなかでの歯の位置により影響されるからである。

イ　乳歯では上顎の乳切歯、上下顎の乳臼歯部でむし歯になりやすく、下顎の前歯部はむし歯に②なりにくい。

ウ　永久歯では③下顎大臼歯部が最もむし歯になりやすい。

エ　むし歯になりやすい歯の部位は、臼歯にある溝（裂溝）や、④歯と歯の間（隣接面）と、歯と歯肉との境目（歯頸部）である。

オ　⑤食べ物による洗浄作用や咀嚼による清掃効果も低いため、歯垢が付着しやすい。適切なブラッシングやフロスなどを使用しないと除去しにくい。

1　①、②
2　②、③
3　③、④
4　④、⑤
5　①、⑤
6　②、④

（4）「精神疾患に関する指導参考資料～新学習指導要領に基づくこれからの高等学校保健体育の学習～」（令和３年３月　日本学校保健会）の「Ⅰ　精神疾患に関する指導の重要性　１．精神疾患をめぐる現状と課題　（５）　若者をめぐる精神疾患　③不安症」に示されている内容①～⑤について、誤っているものの組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

① 摂食障害、全般不安症、社交不安症、分離不安症、恐怖症などが含まれ、わが国では不安症全体で約９％の人が経験するもので、精神疾患の中では最も多い。
② 人前での緊張を特徴とする社交不安症、動物や高所への恐怖症、突然の動悸を中心とするパニック症は10代で始まることが多く、回復に時間がかかることもある。
③ 不安症が先行し、後にうつ病を発症した場合には回復しづらいので、早期における適切な対処が必要である。
④ 原因としては、個人の人格と日常生活上の心配事や対人関係上のストレスなど環境側の要因の組み合わせにより不安が生じ、それが様々な症状となって生じるとされてきたが、近年では生物学的な研究の進歩により、関連する心臓の部位も指摘されている。
⑤ 治療は認知行動療法などの精神療法に加え、適宜薬物療法も併用される。

1　①、②
2　①、④
3　②、③
4　②、⑤
5　③、④
6　④、⑤

（5）「教職員のための指導の手引～UPDATE！エイズ・性感染症～」（平成30年３月　日本学校保健会）の「１　エイズ及び性感染症に関する指導のあり方　（ア）　エイズ及び性感染症に関する指導の重要性」に示されている内容について、誤っているものを、下の１～５のうちから一つ選べ。

1　HIV感染者・エイズ患者の発生動向を見ると、HIV感染者については平成20年（2008年）以降、エイズ患者については平成25年（2013年）以降、新規感染者・患者の報告数はほぼ横ばいとなり高止まりとなっている。
2　十分な治療法がなかった時代には、エイズは「不治の致死的な病気」と考えられていたが、治療薬の進歩により、治療を続けることで体内のウイルスの増殖を極限まで抑えて病気の進行を止めることができるため、HIVに感染しても他の人とほぼ変わらない生活を送ることが可能となった。
3　HIV感染した人の累積数は年々増えているが、適切な治療を受ければ基本的に他者にHIVを感染することもなくなる。このためには、エイズ発症前に検査等で早期発見し、治療を開始することが重要である。
4　感染予防の目標は、事前検査を実行できるようにすることであり、感染者をあぶりだして避けることではない。予防の促進にはまずこのことを理解することが肝要である。
5　性感染症に関して、近年大きな問題となっているのは梅毒の増加である。

（6）「がん教育推進のための教材」（令和３年３月一部改訂　文部科学省）に示されているがんの種類とその特徴に関する内容ア～オのうち、下線部①～⑥の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

ア　胃がんは、①ピロリ菌の感染が発病に関わっていると考えられている。
イ　大腸がんは、②栄養不足や肥満、大量の飲酒などが発病に関連している。
ウ　肺がんは、我が国では、死亡者数が③最も多く、特に男性に多い。
エ　子宮頸がんは、初期の段階では症状がないことが多い。特に症状がなくても④40歳を過ぎたら、⑤１年に１回検診を受けることが勧められている。
オ　乳がんは、乳房内にがんのかたまりができるため、乳房の状態に日頃から関心を持ち、自分の乳房の状態を知ること、乳房の変化（しこり、皮膚のへこみなど）に気付き、医師へ相談すること、⑥30歳になったら乳がん検診を受けることが重要である。

1　①誤　②誤　③誤　④誤　⑤正　⑥正
2　①誤　②正　③正　④正　⑤誤　⑥誤
3　①正　②誤　③正　④誤　⑤誤　⑥誤
4　①正　②正　③正　④正　⑤正　⑥正
5　①誤　②正　③誤　④誤　⑤正　⑥誤
6　①正　②誤　③誤　④正　⑤誤　⑥正

（7）「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料　令和元年度改訂　小学校編」（日本学校保健会）の「理論編　７．教科横断的な展開　1）喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の教科横断的な展開」に関する記述①～⑤について、正しいものの組合せとして最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

①　知識や技能等の育成が総合的に含まれている指導は、一回の授業でその多くを取り上げることはできない。
②　関連する教科等で横断的に実施し、授業者の視点に立ち、各内容を関連付けることで有効性が高まる。
③　体育科等の保健教育において喫煙、飲酒、薬物乱用等の有害性、法律での禁止、誘いなどの開始要因等の知識、規範意識の形成などを学び、さらに特別活動において誘いへの対処の演習により自己主張スキルの育成を、特別の教科である道徳においては自尊感情や規範意識の育成を図る。
④　喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を学校の年間計画に位置付ける際には、体育科保健領域、理科、特別の教科である道徳、総合的な学習の時間など各教科の目標、内容を参考に立案する。
⑤　指導方法についても、講義形式や動画の視聴などに限らず、ブレインストーミング、事例を用いた学習、養護教諭や学校薬剤師等の参画などの工夫ができる。

1　①、②、④
2　②、③、④
3　③、④、⑤
4　①、④、⑤
5　②、③、⑤
6　①、③、⑤

【8】健康相談、心のケアについて、次の（1）～（3）の問いに答えよ。

（1）「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引」（令和３年度改訂　日本学校保健会）の「第３章　学校における健康相談の進め方と支援体制づくり　４　基本的な相談技術及び留意点」に関する記述について、文中の（　①　）～（　④　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

・相談時間は一般的に（　①　）を上限とし、いたずらに長時間にならないように心がけることが基本であるが、児童生徒の状況に合わせて柔軟に対応する。
・（　②　）について相談者に伝える。
・児童生徒の特性、問題の状況、精神疾患の可能性などに応じて、相談者の話を受容的に聞くだけでなく、問題解決に向けた（　③　）のための質問をしたり、教員の意見や助言を伝える。
・（　④　）のある児童生徒の場合、相談の目的を明確にし、えん曲な質問や曖昧な言い方を避け、児童生徒の状況のみならず、特性に合った相談を行う。

1　①　50分　　②　通告義務　　③　情報収集
　　④　性被害
2　①　90分　　②　守秘義務　　③　資質・能力の育成
　　④　性被害
3　①　50分　　②　守秘義務　　③　資質・能力の育成
　　④　広汎性発達障害
4　①　90分　　②　通告義務　　③　情報収集
　　④　性被害
5　①　50分　　②　守秘義務　　③　情報収集
　　④　広汎性発達障害
6　①　90分　　②　通告義務　　③　資質・能力の育成
　　④　広汎性発達障害

（2）「学校における子供の心のケア－サインを見逃さないために－」（平成26年３月　文部科学省）の「第２章　心のケアの進め方　１　心のケアの基本」に示されている学校における日常のケアに関する記述ア～エについて、正誤の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

○学校におけるストレスとその対策の基本
ア　学校生活におけるストレスは、災害や事故が生じた場合はもとより、日常の学業や行事によるストレス、友達関係の問題、子供と教職員の間の問題など学校生活のあらゆる場面にストレス因はあるが、そのストレス因そのものをなくすことができる。
イ　同じ状況においても、その出来事をストレスと感じる子供とそれ程に感じない子供がいる。これは、ストレスの強弱が、個人の経験や特性に影響されるからである。
ウ　心のケア（ストレスケア）の基本は、かかっているストレス因と反対のことをすることである。
エ　本来、子供にとっては力を発揮し、安心できるはずの日常生活であるが、これらも場合によってはストレス因になることはある。

1　ア　誤　　イ　正　　ウ　正　　エ　正
2　ア　誤　　イ　誤　　ウ　誤　　エ　正
3　ア　誤　　イ　正　　ウ　誤　　エ　誤
4　ア　正　　イ　誤　　ウ　正　　エ　正
5　ア　正　　イ　正　　ウ　誤　　エ　誤
6　ア　正　　イ　誤　　ウ　正　　エ　誤

（3）「養護教諭のための児童虐待対応の手引」（平成19年10月　文部科学省）の「第２章　児童虐待の理解　２　児童虐待と心身の健康との関連性　（1）心身の健康への影響」に関する記述ア～オのうち、下線部①～⑤の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

○行動面に現れる影響

ア　いつ加えられるかわからない暴力は、子どもにとって自分をどのようにコントロールすればよいかを学ぶ指標にはならない。そのため、虐待を受けた子どもの多くは落ち着きがなく、①衝動的な行動をとりやすい。

イ　攻撃性の背景には、②生活習慣、低い自己肯定感など、自分を肯定的に見ることができないなどのことがある。

ウ　③食行動の異常は、心を満たされていない思いが、過食など異常な食行動に結びつく場合がある。子どもの給食時間の様子が、虐待の発見に結びつくことも少なくない。

エ　虐待を受けながらも子どもは、自らを受け容れてもらいたいという欲求を強くもっている。少しでも、受け容れてもらえると感じる大人と出会うとき、どこまで自分を受け容れてくれるか、拒絶されるのかを確かめる行動をとるようになる。それを④解離という。

オ　子どもの⑤自尊感情が損なわれ、「自分の存在価値がない」と感じたときに、自分が生きている存在であると感じるために、また、周囲の注意を引くために自傷行為に及ぶ子どももいる。

1　①　正　②　正　③　誤　④　誤　⑤　正
2　①　正　②　誤　③　正　④　正　⑤　誤
3　①　誤　②　正　③　正　④　誤　⑤　誤
4　①　誤　②　誤　③　誤　④　正　⑤　誤
5　①　誤　②　正　③　誤　④　正　⑤　正
6　①　正　②　誤　③　正　④　誤　⑤　正

【9】学校保健計画、保健室経営計画について、次の（1）、（2）の問いに答えよ。

（1）「保健主事のための実務ハンドブック　令和２年度改訂」（日本学校保健会）の「第２章　保健主事の役割」に示されている学校保健計画の作成と実施に関する記述のうち、下線部①～⑤の記述の正誤について、最も適切な組合せを、下の１～６のうちから一つ選べ。

・学校保健計画は、学校において必要とされる保健に関する具体的な実施計画であり、毎年度、学校の状況や前年度の学校保健の取組状況等を踏まえ、作成されるべきものであること。
・学校保健計画には、法律で規定された①児童生徒等及び職員の健康診断、②学校保健行事、③健康相談に関する事項を必ず盛り込むこととすること。
・学校保健に関する取組を進めるに当たっては、学校のみならず、保護者や関係機関・関係団体等と連携協力を図っていくことが重要であることから、学校教育法等において学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとされていることも踏まえ、学校保健計画の内容については原則として保護者等の関係者に④周知を図ることとすること。このことは、学校安全計画についても同様であること。
・各学校においては、これらの留意事項を踏まえ、学校における保健管理と保健教育、学校保健委員会などの組織活動など学校保健活動の年間を見通した⑤総合的な基本計画となるよう作成することが大切である。

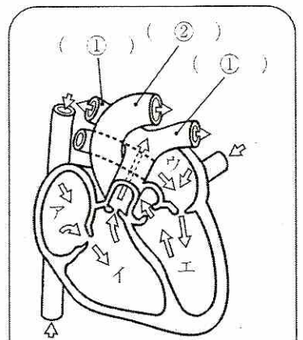
1　①　誤　②　正　③　誤　④　誤　⑤　正
2　①　正　②　誤　③　誤　④　正　⑤　正
3　①　正　②　誤　③　正　④　誤　⑤　誤
4　①　正　②　正　③　誤　④　正　⑤　誤
5　①　誤　②　正　③　正　④　正　⑤　誤
6　①　誤　②　誤　③　正　④　誤　⑤　正

（2）「保健室経営計画作成の手引　平成26年度改訂」（日本学校保健会）の「3　保健室経営計画の作成　(4)　保健室経営計画の評価方法」に示されている自己評価と他者評価に関する記述①～⑤について、誤っているものはいくつあるか。下の1～5のうちから一つ選べ。

① 保健室経営計画に基づいて適切に評価を行うことは、保健室経営の改善、発展の鍵となる。
② 自己評価は養護教諭の取組を対象として実施する。
③ 自己評価の評価規準は、総合的に「よくできた」「ほぼできた」「どちらでもない」「あまりできなかった」「まったくできなかった」の5件法で評価する。
④ 他者評価において、目標に対する達成の状況は、主観的なデータ等で評価する。
⑤ 他者評価では、学校評価の学校保健の全体評価と、保健室経営の評価をそれぞれ行う。

1　なし
2　1つ
3　2つ
4　3つ
5　4つ

【10】次の図は、「JRC蘇生ガイドライン2020対応　赤十字救急法講習　15版」（日本赤十字社）の「資料　3　循環系　(1) 血液循環にかかわる人体の器官」に示されている心臓の模式図と説明文である。次の（　①　）～（　⑤　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の1～6のうちから一つ選べ。



ア　右心房、イ　右心室
ウ　左心房、エ　左心房

心臓は、胸部の中央下方、ほぼ胸骨の後ろのやや（　③　）に偏って位置し、下部は（　④　）に接し、周辺は（　⑤　）で囲まれている。

1　① 肺動脈　② 大動脈　③ 右側　④ 肋間筋　⑤ 肺
2　① 肺静脈　② 大静脈　③ 右側　④ 横隔膜　⑤ 肝臓
3　① 肺動脈　② 大静脈　③ 左側　④ 肋間筋　⑤ 肝臓
4　① 肺動脈　② 大動脈　③ 左側　④ 横隔膜　⑤ 肺
5　① 肺静脈　② 大動脈　③ 右側　④ 肋間筋　⑤ 肝臓
6　① 肺静脈　② 大静脈　③ 左側　④ 横隔膜　⑤ 肺

【11】「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成27年度改訂　日本学校保健会）の「第２章　健康診断時に注意すべき疾病及び異常　２　眼科関連」に示されている内容について、（　①　）～（　⑤　）に入る適語の組合せとして、最も適切なものを、下の１～６のうちから一つ選べ。

・　無調節状態で、（　①　）より後ろに焦点を結ぶ眼を（　②　）という。（　③　）になりやすく、眼鏡を使用した方がよい。
・　（　④　）は、眼の中のピントを合わせる毛様体という筋肉が、近くを長くみていると緊張し、屈折度が近視側に傾いた状態をいう。
・　（　⑤　）は、左右の眼の屈折度が異なるもので、その差が大きいと左右の網膜に映る大きさが異なる（不等像）ため（　③　）の原因になったり、また、幼児期では弱視や両眼視機能の発達が阻害されることがある。

1	① 角膜	② 遠視	③ 眼精疲労	④ 調節緊張	⑤ 斜視
2	① 網膜	② 遠視	③ 黄斑部出血	④ 乱視	⑤ 斜視
3	① 角膜	② 近視	③ 黄斑部出血	④ 調節緊張	⑤ 不同視
4	① 網膜	② 近視	③ 眼精疲労	④ 乱視	⑤ 斜視
5	① 網膜	② 遠視	③ 眼精疲労	④ 調節緊張	⑤ 不同視
6	① 角膜	② 近視	③ 黄斑部出血	④ 乱視	⑤ 不同視

【12】「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引　令和３年度改訂」（日本学校保健会）の「第３章　学校における健康相談の進め方と支援体制づくり　２　学校内外の支援体制づくり　（２）地域の関係機関等との連携体制づくり」に示されている内容について、誤っているものを、次の１～５のうちから一つ選べ。

1　各機関の役割や専門性などの正しい知識を教職員が理解するとともに、連携に当たっての方法や担当窓口などについて、日頃から正しく把握しておく。
2　医療機関等との連携において、地域の小・中・高等学校間の情報交換等ができる体制整備や医療機関や福祉関係機関等を含めた地域レベルの相談体制を確立するために、学校が中心となって組織体制づくりをすることが求められている。
3　学校は、健康相談を必要とする児童生徒の課題解決に当たって、各学校のはっきりとした考え方をもって専門機関と連携していく必要がある。
4　お互いの立場を理解し合い意見交換をしながら支援する姿勢が必要となる。
5　児童生徒が抱えている課題が複雑で支援が多岐にわたり、複数の機関がかかわるような事例は、それぞれの機関が指導方法や指導に関する役割分担・責任を確認しながら実施する。

（これで問題はおわりです。）

令和６年度大分県公立学校教員採用選考試験　第１次試験　正誤表

養護教諭　試験

〔訂正１〕　問題冊子２８ページ【１０】模式図　下部

（誤）　ア　右心房、イ　右心室
　　ウ　左心房、エ　左心房

↓

（正）　ア　右心房、イ　右心室
　　ウ　左心房、エ　左心室

※下線部を変更

専門試験

養護教諭　解答用紙

種目	試験区分コード	選考区分	受験番号	※
2 専門	8　1 養護教諭			

（選考区分欄）
一般選考志望者……1
特別選考［　］志望者…2

問題番号	【1】				【2】		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)
解答欄							

問題番号	【3】		【4】		【5】		
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)
解答欄							

問題番号	【6】	【7】						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
解答欄								

問題番号	【8】			【9】		【10】	【11】	【12】
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)			
解答欄								

養護教諭　正解・配点

問題番号	【1】				【2】		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)
解答欄	3	6	2	2	6	2	1

【1】、【2】(1)(2)各3点　3点×6問＝18点
【2】(3)4点　4点×1問＝4点
計22点

問題番号	【3】		【4】		【5】		
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)
解答欄	3	4	4	1	1	5	4

【3】(1)4点　4点×1問＝4点
【3】(2)、【4】、【5】(3)各3点　3点×4問＝12点
【5】(1)(2)各5点　5点×2問＝10点
計26点

問題番号	【6】	【7】						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
解答欄	2	4	3	5	2	4	3	6

【6】、【7】各3点　3点×8問＝24点
計24点

問題番号	【8】			【9】		【10】	【11】	【12】
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)			
解答欄	5	1	6	2	3	4	5	2

【8】、【12】各3点　3点×4問＝12点
【9】、【10】、【11】各4点　4点×4問＝16点
計28点

合計100点